

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

| | | | |
|------------------|-------------------------------|------|------------------------------|
| 課題番号 | 17H06097 | 研究期間 | 平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度 |
| 研究課題名 | 核磁気共鳴法による膜タンパク質の in situ 機能解明 | | |
| 研究代表者名 (所属・職) | 嶋田 一夫（東京大学・大学院薬学系研究科（薬学部）・教授） | | |

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

| 該当欄 | | 評価基準 |
|--|----|---|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| (評価意見) | | |
| <p>本研究は、タンパク質の構造解析研究の手法としてクライオ電子顕微鏡が主流となっている中で、世界最先端の NMR 解析手法を極めて有効に使いながら、膜タンパク質を中心に動的構造変化とその機能を明らかにしてきたものであり、研究成果は独創性が高く、意義があると考えられる。GPCR や K⁺チャネルの変異型の解析など、本研究は応用範囲の広い研究に大きく発展することが期待され、新たなドラッグデザインの方向性を提示できる可能性もある。当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。</p> | | |